

博士課程

I. 授業科目一覧（一般コース）

※授業科目及び開講時期は、都合により変更される場合があります。

※各科目の詳細、最新情報についてはシラバス及び医歯学総合研究科 HP を参照して下さい。

※高度歯科専門臨床医養成コース等の目的別コースを選択した場合は、授業科目が異なるため、各目的別コースのページを参照して下さい。

1. 共通コア科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
必修	2	医歯学研究講義	2	随時開講		以下の条件を全て満たす。 ●必修科目『医歯学研究講義』を修得する。 ●選択必修科目のうちいずれか1科目を修得する。
選択必修	2	医歯学倫理学	2	○		
		Ethics and Science	2	○	○	
選択	2	科学倫理学基礎論	2		○	
		医療者教育学入門	2	○		
		生命科学英語	2	○		
		Immunobiology	2	○		
		細胞増殖制御	2		○	
		皮膚分子・病態学	2		○	
		先端医療学	2		○	
		Introduction to Scientific Writing	2		○	
		ニューロサイエンス	2		○	
		ウイルス感染症の基礎と臨床	2		○	

2. 共通先端科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	2	遺伝子操作法実習	2	○	○	●2単位以上を修得する。 ●2単位を超えて修得した単位は共通コア科目の選択科目に読み替えることができる。
		生体材料科学実習	2	○		
		データ解析演習	1	○	○	
		臨床疫学	2		○	
		医療情報・統計学	2		○	
		咬合育成論A	2	○		
		咬合育成論B	2	○		
		先端分子細胞医科学	2		○	
		歯科応用薬理学（1）	2	○		
		顎機能補綴学	2	○	○	
		顎口腔機能再建学（1）	2		○	
		顎口腔機能再建学（2）	2	○	○	
		顎口腔機能再建学（3）	2	○	○	
		う蝕制御学	2	○		
		歯髄生物学	2		○	
		口腔疾患病態学	2	○	○	
		口腔顎顔面外科学（1）	2	○	○	
		歯科麻酔学概論	2	○		
		バイオインフォマティクスと医学研究	2		○	
		分子腫瘍学（1）	2	○		
		疫学入門	2	○		
		ニューロサイエンス実習	2		○	
		ウイルス感染症の研究講義	2		○	

3. 専門基礎科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	6	疾病発症機構と予防論	2	○		専門基礎科目全体で（健康科学専攻・先進治療科学専攻を問わず）6単位以上を修得する。
		消化器病学・生活習慣病学	2	○	○	
		糖尿病・内分泌内科学	2	○	○	
		疫学	2		○	
		難治性血液免疫疾患病態制御学	2	○	○	
		法医学特講	2	○	○	
		精神医学概論特講	2	○	○	
		行動医学	2		○	
		医療者教育学応用	2		○	
		歯科医療行動科学	2	○		

種別	必要 単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選 択	6	微生物学特講	2		○	専門基礎科目全体で（健康科学専攻・先進治療科学専攻を問わず）6単位以上を修得する。
		免疫学特論	2	○	○	
		抗ウイルス療法学	2	○	○	
		ウイルス情報テクノロジー	2	○	○	
		トランスレーショナルメディシン	2	○	○	
		HTLV－I 病学	2	○	○	
		分子生化学演習	2	○		
		生殖病態生理学	2	○	○	
		小児科学	2	○	○	
		小児病態学	2		○	
		小児発達病態学	2	○	○	
		口腔分子細胞学	2	○		
		細菌学特講	2	○	○	
		口腔保健推進学	2	○	○	
		顎顔面咬合育成学	2	○	○	
		小児歯科学概論	2	○	○	
		離島医療学特論Ⅰ	2	○		
		機能形態学基礎	2	○		
		神経内科学	2	○		
		顎顔面神経解剖学	2	○	○	
		顎顔面生体力学	2	○		
		脳神経発達特論	2	○	○	
		神経生物学原理	2	○	○	
		視覚形態・機能学	2	○		
		視覚分子・病態学	2		○	
		皮膚形態・機能学	2	○		
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科機能形態学	2	○		
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科分子病態学	2		○	
		遺伝子治療・再生医学	2	○	○	
		感覚運動機能疾患制御学	2	○	○	
		リハビリテーション医学	2	○	○	
		血管代謝病態解析学	2	○	○	
		心臓血管内科学	2	○	○	
		循環器内科学	2	○	○	
		呼吸器内科学	2	○	○	
		統合分子生理学	2	○	○	
		分子情報薬理学	2	○	○	
		侵襲制御学	2	○	○	
		侵襲制御学 2	2	集中		
		侵襲制御学 3	2	集中		
		救急集中治療医学特論Ⅰ	2	○	○	
		救急集中治療医学特論Ⅱ	2	○	○	
		薬物動態制御学	2	○	○	
		歯科応用薬理学（2）	2		○	
		口腔生理学	2	○	○	
		生体材料学	2	○		
		口腔顎顔面補綴学	2	○	○	
		歯科保存学	2	○	○	
		歯周疾患制御学	2	○	○	
		顎顔面腫瘍制御学	2	○	○	
		口腔顎顔面外科学（2）	2	○	○	
		歯科全身管理学	2	○	○	
		放射線診断治療学	2	○	○	
		泌尿器系腫瘍学	2	○	○	
		頭頸部腫瘍病理学	2	○		
		顎顔面放射線学	2	○	○	
		小児外科学	2	○	○	
		心臓血管外科学	2	○	○	
		呼吸器外科学	2	○		
		腫瘍制御学	2	○	○	
		高度がん医療学	2	○	○	
		がん診療学（総論）	2	○	○	
		がん診療学（各論）	2	○	○	
		循環器病学（総論）	2	○	○	
		循環器病学（各論）	2	○	○	
		臨床検査医学（総論）	2	○	○	

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	6	臨床検査医学（各論）	2	○	○	専門基礎科目全体で（健康科学専攻・先進治療科学専攻を問わず）6単位以上を修得する。
		がん診療医学Ⅰ	2	○		
		がん診療医学Ⅱ	2		○	

4. 専門科目

種別	必要単位	研究分野	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	演習4 実験12	衛生学・健康増進医学 消化器疾患・生活習慣病学 糖尿病・内分泌内科学 疫学・予防医学 医療システム情報学 血液膠原病内科学 法医学 精神機能病学 心身内科学 医学教育学 歯学教育学 微生物学 免疫学 抗ウイルス療法研究 ウイルス情報テクノロジー研究 神経免疫学 トランスレーショナルメディシン HTLV-Ⅰ/ATL病態制御学 医化学 生殖病態生理学 小児科学 口腔生化学 口腔微生物学 予防歯科学 歯科矯正学 小児歯科学	衛生学・健康増進医学演習	2	○	○	所属する研究分野の演習4単位 （2単位×2期：1年前期～） 実験12単位 （2単位×6期：2年次～） の合計16単位を修得する。 （演習）4単位を超えて修得した単位は、2単位まで専門基礎科目に読み替えることができる。
			衛生学・健康増進医学実験	2	○	○	
			消化器疾患・生活習慣病学演習	2	○	○	
			消化器疾患・生活習慣病学実験	2	○	○	
			糖尿病・内分泌内科学演習	2	○	○	
			糖尿病・内分泌内科学実験	2	○	○	
			疫学・予防医学演習	2	○	○	
			疫学・予防医学実験	2	○	○	
			医療システム情報学演習	2	○	○	
			医療システム情報学実験	2	○	○	
			血液膠原病内科学演習	2	○	○	
			血液膠原病内科学実験	2	○	○	
			法医学演習	2	○	○	
			法医学実験	2	○	○	
			精神機能病学演習	2	○	○	
			精神機能病学実験	2	○	○	
			行動医学演習	2	○	○	
			行動医学実験・実習	2	○	○	
			医療者教育学演習	2	○	○	
			医療者教育学実験	2	○	○	
			歯科医療行動科学演習	2	○	○	
			歯科医療行動科学実験	2	○	○	
			微生物学演習	2	○	○	
			微生物学実験	2	○	○	
			免疫学演習	2	○	○	
			免疫学実験	2	○	○	
			抗ウイルス療法学演習	2	○	○	
			抗ウイルス療法学実験	2	○	○	
			ウイルス情報テクノロジー演習	2	○	○	
			ウイルス情報テクノロジー実験	2	○	○	
			神経免疫学演習	2	○	○	
			神経免疫学実験	2	○	○	
			トランスレーショナルメディシン演習	2	○	○	
			トランスレーショナルメディシン実験	2	○	○	
			HTLV-Ⅰ/ATL病態制御学演習	2	○	○	
			HTLV-Ⅰ/ATL病態制御学実験	2	○	○	
			医化学演習	2	○	○	
			医化学実験	2	○	○	
			生殖病態生理学演習	2	○	○	
			生殖病態生理学実験	2	○	○	
			小児科学演習	2	○	○	
			小児科学実験	2	○	○	
			硬組織の分子生物学演習	2	○	○	
			硬組織の分子生物学実験	2	○	○	
			口腔細菌学演習	2	○	○	
			口腔細菌学実験	2	○	○	
			口腔保健推進学演習	2	○	○	
			口腔保健推進学実験	2	○	○	
			顎顔面咬合育成学演習	2	○	○	
			顎顔面咬合育成学実験	2	○	○	
			小児歯科学演習	2	○	○	
			小児歯科学実験	2	○	○	

種別	必要 単位	研究分野	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選 択	演習 4 実験 12	地域医療学	地域医療学演習	2	○	○	所属する研究分野の 演習 4 単位 (2 単位×2 期：1 年前期～) 実験 12 単位 (2 単位×6 期：2 年次～) の合計 16 単位を修得する。 (演習) 4 単位を超えて修得し た単位は、2 単位まで専門基 礎科目に読み替えることがで きる。
			地域医療学実験	2	○	○	
		形態科学	機能形態学演習	2	○	○	
			機能形態学実験	2	○	○	
		神経筋生理学	神経筋生理学演習	2	○	○	
			神経筋生理学実験	2	○	○	
		脳神経内科・ 老年病学	神経疾患学・老年病学演習	2	○	○	
			神経疾患学実験	2	○	○	
		脳神経外科学	脳神経外科学演習	2	○	○	
			脳神経外科学実験	2	○	○	
		歯科機能形 態学	顎顔面に係わる神経の機能形態学演習	2	○	○	
			顎顔面に係わる神経の機能形態学実験	2	○	○	
		解剖法歯学	顎顔面口腔領域の肉眼解剖学演習	2	○	○	
			顎顔面口腔領域の肉眼解剖学実験	2	○	○	
		解剖法歯学	法医歯科学の理論と実践演習	2	○	○	
			法医歯科学の理論と実践実験	2	○	○	
		眼科学	眼科病態学演習	2	○	○	
			眼科病態学実験	2	○	○	
		皮膚科学	皮膚病態解析学演習	2	○	○	
			皮膚病態解析学実験	2	○	○	
		耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	上気道病態学演習	2	○	○	
			上気道病態学実験	2	○	○	
		遺伝子治療・ 再生医学	遺伝子治療・再生医学演習	2	○	○	
			遺伝子治療・再生医学実験	2	○	○	
		整形外科	感覚運動機能疾患制御学演習	2	○	○	
			感覚運動機能疾患制御学実験	2	○	○	
		リハビリテー ション医学	リハビリテーション医学演習	2	○	○	
			リハビリテーション医学実験	2	○	○	
		血管代謝病 態解析学	血管代謝病態解析学演習	2	○	○	
			血管代謝病態解析学実験	2	○	○	
		心臓血管・高 血圧内科学	循環器疾患学演習	2	○	○	
			循環器疾患学実験	2	○	○	
		呼吸器内科学	呼吸器病学演習	2	○	○	
			呼吸器病学実験	2	○	○	
		統合分子生 理学	統合分子生理学演習	2	○	○	
			統合分子生理学実験	2	○	○	
		生化学・分 子生物学	分子神経生物学演習	2	○	○	
			分子神経生物学実験	2	○	○	
		生体情報薬 理学	生体情報薬理学演習	2	○	○	
			生体情報薬理学実験	2	○	○	
		侵襲制御学	生体機能学演習	2	○	○	
			生体機能学実験	2	○	○	
		救急・集中 治療医学	救急集中治療医学演習	2	○	○	
			救急集中治療医学実験	2	○	○	
		薬物動態制 御学	薬物動態制御学演習	2	○	○	
			薬物動態制御学実験	2	○	○	
		歯科応用薬 理学	記憶成立と記憶障害の薬理学演習	2	○	○	
			記憶成立と記憶障害の薬理学実験	2	○	○	
		口腔生理学	口腔生理学演習	2	○	○	
			口腔生理学実験	2	○	○	
		歯科生体材 料学	歯科生体材料学演習	2	○	○	
			歯科生体材料学実験	2	○	○	
		咬合機能補 綴学	固定性歯科補綴治療学演習	2	○	○	
			固定性歯科補綴治療学実験	2	○	○	
		口腔顎顔面 補綴学	口腔顎顔面形態・機能再建学演習	2	○	○	
			口腔顎顔面形態・機能再建学実験	2	○	○	
		歯科保存学	歯科保存学演習	2	○	○	
			歯科保存学実験	2	○	○	

種別	必要単位	研究分野	科目数	単位数	前期	後期	履修方法
選択	4 実験 12	歯周病学	歯周疾患分子病態学、分子遺伝解析学および口腔硬組織再生学演習	2	○	○	所属する研究分野の演習 4 単位 (2 単位×2 期：1 年前期～) 実験 12 単位 (2 単位×6 期：2 年次～) の合計 16 単位を修得する。 (演習) 4 単位を超えて修得した単位は、2 単位まで専門基礎科目に読み替えることができる。
			歯周疾患分子病態学、分子遺伝解析学および口腔硬組織再生学実験	2	○	○	
		顎顔面疾患制御学	顎顔面腫瘍発生病態解析学演習	2	○	○	
			顎顔面腫瘍発生病態解析学実験	2	○	○	
		口腔顎顔面外科学	口腔顎顔面外科学演習	2	○	○	
			口腔顎顔面外科学実験	2	○	○	
		歯科麻酔全身管理学	歯科全身機能管理制御学演習	2	○	○	
			歯科全身機能管理制御学実験	2	○	○	
		分子腫瘍学	分子腫瘍学演習	2	○	○	
			分子腫瘍学実験	2	○	○	
		病理学	腫瘍病態病理学演習	2	○	○	
			腫瘍病態病理学実験	2	○	○	
		放射線診断治療学	放射線診断治療学演習	2	○	○	
			放射線診断治療学実験	2	○	○	
		泌尿器科学	泌尿器系腫瘍学演習	2	○	○	
			泌尿器系腫瘍学実験	2	○	○	
		分子口腔病理解析学	口腔腫瘍発生論演習	2	○	○	
			口腔腫瘍発生論実験	2	○	○	
		顎顔面放射線学	口腔腫瘍治療学・診断学演習	2	○	○	
			口腔腫瘍治療学・診断学実験	2	○	○	
		小児外科学	小児外科学演習	2	○	○	
			小児外科学実験	2	○	○	
		心臓血管外科学	心臓血管外科学演習	2	○	○	
			心臓血管外科学実験	2	○	○	
		呼吸器外科学	呼吸器外科学演習	2	○	○	
			呼吸器外科学実験	2	○	○	
		消化器外科学	腫瘍制御学演習	2	○	○	
			腫瘍制御学実験	2	○	○	
		乳腺甲状腺外科学	乳腺甲状腺外科学演習	2	○	○	
			乳腺甲状腺外科学実験	2	○	○	
		癌・再生医療学	再生・移植学演習	2	○	○	
			再生・移植学実験	2	○	○	
		臓器置換・異種移植外科学	異種移植外科免疫学演習	2	○	○	
			異種移植外科免疫学実験	2	○	○	
		遺伝子発現制御学	再生・再建移植学演習	2	○	○	
			再生・再建移植学実験	2	○	○	
		臨床腫瘍学	高度がん医療学実習	2	○	○	
		臨床情報医学工学	臨床情報医学演習	2	○	○	
			臨床情報医学実験	2	○	○	
		がん診療医学	がん診療医学演習	2	○	○	
			がん診療医学実験	2	○	○	
		総合救命救急医学	総合救命救急医学Ⅰ演習	2	○	○	
			総合救命救急医学Ⅰ実習	2	○	○	
		総合成育医療学	新生児病学演習	2	○	○	
			新生児病学実習	2	○	○	
		総合がん診療医学	総合がん診療医学Ⅰ演習	2	○	○	
			総合がん診療医学Ⅰ実習	2	○	○	
		総合診療医学	総合診療医学における循環器病学演習	2	○	○	
			総合診療医学における循環器病学実習	2	○	○	

Ⅱ. 目的別コースの紹介

①. 先端がん診断・治療コース

本コースは、令和6年度からスタートしたコースで、地域がん医療を総合的に行える人材の育成と共に、医師、薬剤師、看護師、放射線技師等と協調してチーム医療の核となる指導的がん専門医を養成する目的で開講いたします。また、プレシジョン医療を推進し、自ら研究開発できる人材の育成も行います。九州11大学が連携して行う「次世代の九州がんプロ養成プラン」の一つとしてスタートいたしました。健康科学専攻および先進治療科学専攻を問わず、どの研究分野からも本コースを選択できます。

本コースでは、所属専攻分野での研究とともに、コース習得中に臨床実習があることが特徴です。その中では、日本臨床腫瘍学会専門医や日本がん治療認定医機構認定医の取得を念頭にした症例実習を行います。具体的には、日本臨床腫瘍学会の定める専門医制度に準拠した認定研修施設（鹿児島大学病院）において、複数のがん種（血液腫瘍、呼吸器がん、消化器がん、乳がんなどを含む10症例程度）の診療を経験し、また放射線治療や緩和ケアに関しても学習することを目的としています。さらには、今後ますます臨床応用が進むゲノム医療に関しても、当講座主催の鹿児島大学病院 Cancer Board・エキスパートパネルでの実習を約1週間程度行います。

本コースの修了要件は、まず一般の博士課程と同様に30単位が必要です。そのなかに本コース特有の共通コア科目〔医歯学研究講義（必修2単位）、医歯学倫理学、科学倫理学基礎論から選択必修2単位、生命科学英語、細胞増殖制御から選択2単位、合計6単位〕と、共通先端科目〔データ解析演習、バイオインフォマティクスと医学研究、分子腫瘍学（1）〕から2単位、専門基礎科目から高度がん医療学を必修として2単位、および小児発達病態学、離島医療学特論Ⅰ、薬物動態制御学、腫瘍制御学、放射線診断治療学、難治性血液免疫疾患病態制御学、遺伝子治療・再生医学から選択4単位以上、合計6単位以上を取得する必要があります。

演習と実験は、本来所属する研究分野の授業科目を選択し、合計16単位を取得することになります。研究課題の成果を学会で発表、専門誌への論文発表を行い、学位審査を受けることになります。本コースでの修了要件として、上記臨床修練および研修があります。これらは単位化されていませんが、別に定める様式により、臨床修練中に経験したがん患者4症例の要約およびゲノム医療実習に関するレポートを提出していただき、それを本コース修了認定の際の資料とします。

先端がん診断・治療コース 科目一覧

1. 共通コア科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
必修	2	医歯学研究講義	2	○	○	以下の条件を全て満たす。 ●必修科目『医歯学研究講義』を修得する。 ●選択必修科目のうちいずれか1科目を修得する。 ●選択科目のうち、いずれか1科目を修得する。
選択必修	2	医歯学倫理学	2	○		
		科学倫理学基礎論	2		○	
選択	2	生命科学英語	2	○		
		細胞増殖制御	2		○	

2. 共通先端科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	2	データ解析演習	1	○	○	●2単位以上を修得する。 ●2単位を超えて修得した単位は、共通コア科目の選択科目に読み替えることができる。
		バイオインフォマティクスと医学研究	2		○	
		分子腫瘍学（1）	2	○		

3. 専門基礎科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
必修	2	高度がん医療学	2	○	○	以下の条件を全て満たす。 ●必修科目『高度がん医療学』を修得する。 ●専門基礎科目全体で6単位以上を修得する。
選択	4	小児発達病態学	2	○	○	
		離島医療学特論Ⅰ	2	○		
		薬物動態制御学	2	○	○	
		放射線診断治療学	2	○	○	
		腫瘍制御学	2	○	○	
		難治性血液免疫疾患病態制御学	2	○	○	
		遺伝子治療・再生医学	2	○	○	

4. 専門科目

所属する研究分野の演習科目4単位及び実験科目12単位の合計16単位を修得する。

※各科目の開講期等は変更となる可能性があります。

②. ウイルス性難治疾患研究コース

本コースは平成20年度からスタートしたコースです。レトロウイルス関連難治性疾患の研究で実績のある鹿児島大学でしかできない難治性疾患に関する最先端の実践的な基礎的、臨床教育を行い、経験豊かな研究者が、若手研究者と一体となって研究を行うことにより次世代の生命医療科学研究者、難治疾患の制圧を志す医学研究者、医師を輩出することを目指しています。

先進治療科学専攻、先端のがん診断治療研究センター、難治ウイルス病態制御研究センターが中心となり、がんその他の難治疾患の研究に必要な生化学、分子生物学、遺伝工学などの基礎生命科学の講義、実習、演習を行います。

また、前記の2つのセンターと附属病院治験管理部、および腫瘍センターが緊密に協力して、高度専門職能人を養成するための、より専門性を高めた各難治性疾患の診断と治療に関する講義、実験、臨床修練を行う教育コースを、既設の臨床腫瘍専門医コースと連携して効率的に行います。本コースの修了要件は、一般博士課程と同様30単位が必要です。

ウイルス性難治疾患研究コース科目一覧

1. 共通コア科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
必修	2	医歯学研究講義	2	○	○	以下の条件を全て満たす。 ●必修科目『医歯学研究講義』を修得する。 ●選択必修科目のうちいずれか1科目を修得する。 ●選択科目から全体で2単位以上を修得する。
選択必修	2	医歯学倫理学	2	○		
		科学倫理学基礎論	2	○	○	
選択	2	生命科学英語	2	○		
		Immunobiology	2	○		
		細胞増殖制御	2		○	

2. 共通先端科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	2	データ解析演習	1	○	○	
		医療情報・統計学	2		○	
		先端分子細胞医科学	2	○		
		バイオインフォマティクスと医学研究	2		○	
		分子腫瘍学(1)	2	○		

3. 専門基礎科目

種別	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
健康科学 専攻	微生物学特講	2	○	○	※この中から6単位以上になるように修得する。
	抗ウイルス療法学	2	○	○	
	HTLV-I 病学	2	○	○	
	難治性血液免疫疾患病態制御学	2	○	○	
先進治療科学 専攻	遺伝子治療・再生医学	2	○	○	
	分子情報薬理学	2	○	○	
	薬物動態制御学	2	○	○	
	腫瘍制御学	2	○	○	

4. 専門科目

種別	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
健康科学専攻	微生物学演習	2	○	○	所属する研究分野の演習4単位 (2単位×2期:1年前期～) 実験12単位 (2単位×6期:2年次～)の 合計16単位を修得する。 (演習)4単位を超えて修得した単位は、2単位まで専門基礎科目に読み替えることができる。
	微生物学実験	2	○	○	
	免疫学演習	2	○	○	
	免疫学実験	2	○	○	
	抗ウイルス療法学演習	2	○	○	
	抗ウイルス療法学実験	2	○	○	
	神経免疫学演習	2	○	○	
	神経免疫学実験	2	○	○	
	難治性血液免疫疾患病態制御学演習	2	○	○	
	難治性血液免疫疾患病態制御学実験	2	○	○	
	分子病態生化学演習	2	○	○	
	分子病態生化学実験	2	○	○	
先進治療科学専攻	遺伝子治療・再生医学演習	2	○	○	
	遺伝子治療・再生医学実験	2	○	○	
	分子機能生物学演習	2	○	○	
	分子機能生物学実験	2	○	○	
	薬物動態制御学演習	2	○	○	
	薬物動態制御学実験	2	○	○	
	腫瘍病態病理学演習	2	○	○	
	腫瘍病態病理学実験	2	○	○	
	腫瘍制御学演習	2	○	○	
	腫瘍制御学実験	2	○	○	
	分子腫瘍学演習	2	○	○	
	分子腫瘍学実験	2	○	○	

③. 高度歯科専門臨床医養成コース（博士課程）

1. 教育研究目標

本コースは、歯科臨床の専門分野において幅広い専門的知識・臨床能力を有し、その専門分野の高度な研究遂行能力と、先端的な医療のできる臨床専門医を養成する目的で開講する。

2. 教育内容

本コースでは、歯科医療・福祉等のさまざまな分野で専門医や認定医の取得を念頭に、鹿児島大学病院を中心に臨床修練を行う。その際、各専門領域の専門医あるいは認定医の資格を効率よく取得できるよう基礎研修および臨床研修を積むとともに、高度専門職業人としての歯科医師に必要な高い倫理観と幅広い専門的知識・臨床能力、ならびに研究の遂行に必要な研究手法や能力を習得させる。

3. カリキュラムの実際

高度歯科専門臨床医養成コースは、共通コア科目、共通先端科目、専門基礎科目および専門科目からなる。また、各専門学会の専門医あるいは認定医の取得を念頭に資格基準の症例数を経験させるべく、各専門診療科が定めるミニмум・リクウィアメントを達成するため、担当症例等を通じて臨床修練を行う。

1年目は一般コース同様に、共通コア科目、共通先端科目を履修し、各々6単位、および2単位とする。共通コア科目の選択科目は共通先端科目からの読み替えを可能とする。専門基礎科目は臨床講義・実習からなる科目を各2単位、3期、計6単位を履修する。専門科目においては、1年前期から演習を2単位、2期、計4単位を履修し、入学後1年以内に研究テーマを決定した後、臨床修練を2単位、6期、計12単位を履修する。研究計画書を作成した後に、学術書や学術誌などの資料から幅広い専門的知識を学ぶとともに、研究の遂行に必要な研究手法を修得し、研究活動を通して優れた医療を提供する。

なお、臨床修練の成果については、各専門科内での症例検討会などで発表し、各専門診療科が定めるミニмум・リクウィアメントの達成状況と併せて報告する。なお、関連学会の専門医あるいは認定医等の受験に際して、本コースの4年間を研修期間として認定する。

4. 学位申請要件

学位名は、博士（歯学）とする。

学位申請要件は、一般の博士課程と同じとする。

5. コースの開始時期

本コースは、平成21年度から開始する。

高度歯科専門臨床医養成コース 科目一覧

1. 共通コア科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
必修	2	医歯学研究講義	2	○	○	以下の条件を全て満たす。 ●必修科目「医歯学研究講義」を修得する。 ●選択必修科目のうち1科目を修得する。
選択必修	2	医歯学倫理学	2	○		
		Ethics and science	2	○	○	
		科学倫理学基礎論	2		○	
選択	2	医療者教育学入門	2	○	○	
		生命科学英語	2	○		
		Life Science English	2	○		
		Immunobiology	2	○		
		細胞増殖制御	2		○	
		皮膚分子・病態学	2		○	

2. 共通先端科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	2	遺伝子操作法実習	2	○	○	●選択科目のうち2科目を超えて修得した選択科目は共通コアの選択科目に読み替えることができる。
		生体材料科学実習	2	○		
		データ解析演習	1	○		
		臨床疫学	2		○	
		医療情報・統計学	2		○	
		咬合育成論 A	2	○		
		咬合育成論 B	2	○		
		先端分子細胞医科学	2	○		
		歯科応用薬理学 (1)	2	○		
		顎機能補綴学	2	○	○	
		顎口腔機能再建学 (1)	2		○	
		顎口腔機能再建学 (2)	2		○	
		顎口腔機能再建学 (3)	2		○	
		う蝕制御学	2	○		
		歯髄生物学	2		○	
		口腔疾患病態学	2	○	○	
		口腔顎顔面外科学 (1)	2	○		
		歯科麻酔学概論	2	○		
		バイオインフォマティクスと医学研究	2		○	
		分子腫瘍学 (1)	2	○		

3. 専門基礎科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	6	予防歯科学	2	○	○	所属する専攻を問わず専門基礎科目全体で6単位以上を修得する。
		顎顔面咬合育成学	2	○	○	
		小児歯科学	2	○	○	
		口腔顎顔面補綴学	2	○	○	
		歯科保存学	2	○	○	
		歯周病学	2	○	○	
		顎顔面疾患制御学	2	○	○	
		口腔顎顔面外科学 (2)	2	○	○	
		歯科麻酔全身管理学	2	○	○	
		顎顔面放射線学	2	○	○	

4. 専門科目

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	16 演習 4 修練 12	口腔保健推進学演習	2	○	○	所属する研究分野の演習4単位 (2単位 x 2期) および臨床修練12単位 (2単位 x 6期) の合計16単位を修得する。 (演習) 4単位を超えて修得した単位は、2単位まで専門基礎科目に読み替えることができる。
		予防歯科学臨床修練	2	○	○	
		顎顔面咬合育成学演習	2	○	○	
		顎顔面咬合育成学臨床修練	2	○	○	
		小児歯科学演習	2	○	○	
		小児歯科学臨床修練	2	○	○	

種別	必要単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選択	16 演習 4 修練 12	口腔顎顔面形態・機能再建学演習	2	○	○	所属する研究分野の演習 4 単位 (2 単位 x 2 期) および臨床修練 12 単位 (2 単位 x 6 期) の合計 16 単位を修得する。 (演習) 4 単位を超えて修得した単位は、2 単位まで専門基礎科目に読み替えることができる。
		口腔顎顔面補綴学臨床修練	2	○	○	
		歯科保存学演習	2	○	○	
		歯科保存学臨床修練	2	○	○	
		歯周疾患分子病態学、分子遺伝解析学および口腔硬組織再生学演習	2	○	○	
		歯周病臨床修練	2	○	○	
		顎顔面腫瘍発生病態解析学演習	2	○	○	
		顎顔面疾患制御学臨床修練	2	○	○	
		口腔顎顔面外科学演習	2	○	○	
		口腔顎顔面外科学臨床修練	2	○	○	
		歯科全身機能管理制御学演習	2	○	○	
		歯科麻酔全身管理学臨床修練	2	○	○	
		口腔腫瘍治療学・診断学演習	2	○	○	
		顎顔面放射線学臨床修練	2	○	○	

高度歯科専門臨床医養成コース 科目履修表

	共通コア科目 (6 単位)	共通先端科目 (2 単位)	専門基礎科目 (6 単位)	専門科目 (16 単位)
一年次	必修 2 単位 医歯学研究講義 選択必修 2 単位 医歯学倫理学 科学倫理学入門 科学倫理学基礎論	一般コースと同じ シラバス	高度歯科専門臨床医 養成コースの 臨床修練・実習の シラバス	英語 (6 単位) 2 単位 x 3 期 1年以内に研究 開始前計画書の 審査を受ける
二年次	選択科目 2 単位 (共通先端科目を讀 み替え可能)			臨床修練 (12 単位) 2 単位 x 6 期 高度歯科専門臨床医 養成コースの 演習・臨床修練の シラバス
三年次				
四年次				

論文発表

④. グローバル医歯学コース

鹿児島大学医歯学総合研究科では、共同研究や留学生の受け入れを研究室や診療科を中心としてこれまでに多数実施することによって、世界各国への社会貢献を実践してきました。この経験を活かし、留学生を対象とした恒常的なコースとして「グローバル医歯学コース」を平成31年度から設置しました。本コースは、全ての授業を英語で受講し、英語のみで学位を取得可能であることが最大の特徴です。

【目的】

本コースでは、国際社会において医学・歯学の発展に寄与する研究者・専門医・教育者の育成を目的としています。学生は以下にあげる各専攻の研究活動を通して、国際的な評価に耐える研究を計画・実施・発信する能力を修得し、さらに、広い視野で研究の社会的な意味を問い続け、共同研究を推進する協調性と倫理観を有した人材となることをめざします。

【教育内容の特徴】

本コースでは、各所属研究分野における研究指導を英語で行うことはもちろん、共通の講義科目についても原則英語で実施します。併せて、英語を母国語としない留学生のために、「Life Science English」、「Life Science Writing in English」等の英語の基礎的能力を身につけさせる講義も複数開講します。

本コースのカリキュラムは、本研究科の一般コース同様に、共通コア科目、共通先端科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。

【修了要件】

所定の在学年限（4年）以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院博士課程に3年以上在学すれば足りるものとします。

修了に必要な30単位の内訳は以下の通りです。「共通コア科目」については、必修2単位、選択必修2単位、選択2単位の合計6単位以上を取得する必要があります。選択科目2単位については、共通先端科目からの読み替えが可能です。「共通先端科目」については、合計2単位以上を修得する必要があります。2単位を超えて修得した単位は、共通コア科目の選択科目に読み替えることが可能です。「専門基礎科目」については、健康科学専攻及び先進治療科学専攻を問わず、専門基礎科目全体から選択して合計6単位以上を取得する必要があります。「専門科目」については、所属する研究分野の演習4単位以上、実験・実習12単位以上を選択して、合計16単位以上を取得する必要があります。

学位論文については、研究開始前計画書の審査、論文投稿時の審査（中間審査）を経た上で、最終学位審査を受けることになります。各段階で、内容はもとより倫理的配慮に関しても厳格に審査されます。

グローバル医歯学コース 科目一覧

科目	種別	必要 単位	科目名	単位	担当者名
共通コア科目	必修	2	Medical and Dental research lectures	2	教育委員会委員長
	選択必修	2	Ethics and science	2	SLOAN Robert Alan
	選択	2	Introduction to Scientific Writing	2	SLOAN Robert Alan
			Life Science English	2	KUSANO Shuichi
共通先端科目	選択	2	Data analysis	1	KORIYAMA Chihaya
	選択		Bioinformatics and medical research	2	YAMAMOTO Masatatsu
専門基礎科目	選択	6	専門基礎科目	2 × 3	各分野
専門科目	選択	4	演習	2 × 2	各分野指導教員
	選択	12	実験・実習	2 × 6	各分野指導教員
合計		30			

⑤. ニューロサイエンスコース

ニューロサイエンス（神経科学）は生理学、解剖学、薬理学、細胞生物学などの基礎分野から脳外科、神経内科、精神科、心身内科、リハビリテーション科などの臨床分野、さらには工学、計算科学分野におよぶ広い専門を包括する学問領域です。本コースではこのような専門が多分野にまたがるニューロサイエンスの基盤教育を行います。講義では必修科目として「ニューロサイエンス入門」を開講し、基礎から臨床に関わる内容を網羅した授業を行います。また、近年のニューロサイエンス基礎研究やトランスレーショナル研究においては、モデル動物を用いたインビボイメージングやウイルスベクターを用いた遺伝子操作や神経回路標識、光・化学遺伝学的手法による神経活動操作、など多様多彩な実験手法を組み合わせる研究を進めることが主流となっています。このため、本コースでは集中授業「ニューロサイエンス実習」を設け、最新実験技術を習得する場を提供するとともに、学内外での研究協力人的ネットワークの構築をサポートします。また、本コースでは学術交流協定に基づく海外研究機関との交流やその他の国際交流教育プログラムと連携してグローバルな視点と人脈をもつ人材の育成を目指します。

本コースの修了要件は、一般博士課程と同様 30 単位が必要です。

ニューロサイエンスコース 科目一覧

1. 共通コア科目

種別	必要 単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
必修	2	医歯学研究講義	2	○	○	以下の条件を全て満たす。 ●必修科目「医歯学研究講義」を修得する。 ●選択必修科目のうち1科目を修得する。
選択 必修	2	生命科学英語	2	○		
		医歯学倫理学	2	○		
		科学倫理学基礎論	2		○	
選択	2	ニューロサイエンス	2		○	

2. 共通先端科目

種別	必要 単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選 択	2	ニューロサイエンス実習	2		○	●選択科目のうち2科目を超えて修得した選択科目は共通コアの選択科目に読み替えることができる。

3. 専門基礎科目

種別	必要 単位	科目名	単位数	前期	後期	履修方法
選 択	2	精神医学概論特講	2	○	○	●選択科目から6単位以上を修得する。
		行動医学	2		○	
		機能形態学基礎	2	○		
		顎顔面神経解剖学	2	○	○	
		脳神経発達特論	2	○	○	
		視覚形態・機能学	2	○		
		聴覚頭頸部形態・機能学	2	○		
		感覚運動機能疾患制御学	2	○	○	
		リハビリテーション医学	2	○	○	
		統合分子生理学	2	○	○	
		分子情報薬理学	2	○	○	
		侵襲制御学	2	○	○	
		薬物動態制御学	2	○	○	
		口腔生理学	2	○	○	

4. 専門科目

所属する研究分野の演習 4 単位 (2 単位 x 2 期) および実験科目 12 単位 (2 単位 x 6 期) の合計 16 単位を修得する。

⑥. ウイルス感染症制御学コース

1. 教育目標

COVID-19 パンデミックに代表される、新規ウイルス感染症は人類の課題であり、次世代ウイルス研究者の育成が必要です。本コースでは、ヒトに疾病をもたらす慢性ウイルスおよび新興・再興ウイルスに対する研究者の育成を行います。さらに、国際的な研究能力をもつ次世代ウイルス研究者を育成します。そのため、講義・実験は全て英語で行い、外国人留学生も容易に受講できるようにします。

2. 教育内容

本コースでは、ウイルス感染症研究の Professional 教育を実施します。必修の講義科目として、「ウイルス感染症の基礎と臨床」を開講し、ウイルス感染症の概論から、感染免疫学、慢性ウイルスおよび新興・再興ウイルスの基礎病態学や疫学、臨床に加えて世界的な見地からこれらの感染症の問題を講義するとともに、本邦および世界の抗ウイルス薬の創薬についても概説します。また、第一線のウイルス研究者の講師陣による「ウイルス感染症の研究講義」を必修科目として開講します。以上の2科目は、本学医歯学総合研究科、理工学研究科の教員と、本学が熊本大学と合同運営するヒトレトロウイルス学共同研究センター熊本大学キャンパス、宮崎大学、および東京医科歯科大学から外部講師を招聘し、オムニバス形式で行われます。さらに、選択科目として、統計学、生命科学英語の講義を実施し、研究者に必要な基礎的素養を身に付けるための教育を行います。

3. 修了要件

本コースの修了要件は、一般博士課程と同様に 30 単位が必要です。共通コア科目の「医歯学研究講義」（2単位）、「医歯学倫理学」（2単位）、「ウイルス感染症の基礎と臨床」（2単位）と共通先端科目の「ウイルス感染症の研究講義」（2単位）は必修です。共通コア科目および共通先端科目の選択科目、「Introduction toScientific Writing」、「生命科学英語」、「データ解析演習」、「バイオインフォマティクスと医学研究」については、希望者は任意に選択して履修することができます。専門基礎科目については、専門基礎科目（2単位）を3科目以上選択し、合計6単位以上を取得する必要があります。「専門科目」については、所属する研究分野の演習4単位以上、実験・実習は12単位以上を取得し、計16単位を修得する必要があります。

ウイルス感染症制御学コース 科目一覧

科目	種別	必要単位	科目名	単位	担当者名
共通コア科目	必修	6	医歯学研究講義	2	教育委員会委員長
			医歯学倫理学	2	教育委員会委員長
			ウイルス感染症の基礎と臨床	2	オムニバス形式
	選択		Introduction to Scientific Writing	2	SLOAN Robert Alan
			生命科学英語	2	草野 秀一
共通先端科目	必修	2	ウイルス感染症の研究講義	2	オムニバス形式
	選択		データ解析演習	1	郡山 千早
			バイオインフォマティクスと医学研究	2	山本 雅達
専門基礎科目	選択	6	専門基礎科目	2×3	各分野
専門科目	選択	4	演習	2×2	各分野指導教員
	選択	12	実験・実習	2×6	各分野指導教員

	共通コア		共通先端科目		専門基礎科目		専門科目	
							演習	実験・実習
1年次	6 単位		2 単位		6 単位		4 単位 (2単位×2期)	
2年次								
3年次	(できるだけ早期に修得するのが望ましい)		(できるだけ早期に修得するのが望ましい)		(できるだけ早期に修得するのが望ましい)		(できるだけ早期に修得するのが望ましい)	12 単位 (2単位×6期)研究計画書の承認後～または2年次進級後～
4年次								